

## 道

～先輩が言っていたことを忘れないで、いま未来手帳に書き込むか、メモしておこう～



## 進路講演会「先輩の話を聴く会」を終えて～感想より～

7月7日の5時間目に吹田東高校、茨木高校、三島高校、北摂つばさ高校の3年生の先輩方をおよびし、進路講演をしていただきました。短時間でしたが、受験や高校生活のようすなどを語っていただきました。その中から、一部紹介。

- ・聞いて思ったことは、私と同じように勉強したくない人でも頑張れば高校に行けるということを知りました。それにいろいろなテキストをやるよりも、同じ問題を何度も解く方がいいということも知りました。
- ・5人の先輩に受験のことを詳しく聞いて、親や先生から聞く話と全然違う視点から考えることができました。どの高校でも5人全員が楽しい高校生活を送ることができていて、自分に合った高校を選ぶこともできていたし、すごいなと思いました。
- ・色々な先輩の意見を聞いて、高校受験の学び方やどのようにこれから行動していくのかなどのアドバイスをもらい、私は受験勉強の大変さを改めて知りました。また色々な先輩の今をみて、高校受験はすごく大変だけど自分の行きたい高校にいったときのことを考えたら、高校受験ものりこえられると思いました。
- ・高校の情報を集めたり、実際に行ってみることも大事だとわかりました。また、「英検などの取得はあきらめ時も大切だ」と言われたときに、ドキッとしました。夏休みに受ける英検のためにがんばって勉強するのはもちろん、もし落ちてしまったときは、いさぎよく諦めて他の教科の勉強にも力を入れるべきだとわかりました。
- ・改めて自分で高校を選ぶことの大切さを学びました。自分で選ばず誰かの勧めだけでうけたりしてしまうとモチベーションもあがらず、勉強できず、入ってから思っていたのとちがったということがおきかねないので、自分で調べて選ぶようにしたいなと思いました。
- ・ほかの人も頑張っているだろうから、短い時間でも、メリハリをつけて勉強しようと思った。オープンスクールは公立しか行ってないけど、私立もたくさん行ったほうが高校選びで重要だとわかった。実際に高校を選ぶときには、3年間自分がしっかり通い続けられるところにきめようと思った。
- ・今回の先輩の話を聞いて、前回高校の先生の講演を聞いた時と同じように、それぞれの高校の特徴を具体的に知ることができました。前回と同じように今回もオープンスクールが大切と言っていたのでいってみようと思います。



## ～近々ある合同説明会一覧～

予約の有無や行き方などは、事前にホームページや案内のチラシなどで確認してから行ってください。

| 日付      | 時間        | イベント名         | 場所           |
|---------|-----------|---------------|--------------|
| 7/23    | 10時～16時   | 公立高校進学フェア     | インテックス大阪6号館  |
| 8/12・13 | 9時～17時    | 大阪私学フェア       | 天満橋 OMMビル 2F |
| 8/18    | 13時半～16時半 | 高槻地区公立高校合同説明会 | 高槻城公園芸術文化劇場  |
| 8/21    | 13時～16時   | 茨木地区公立高校合同説明会 | クリエイトセンター    |
| 9/2・3   | 未定        | 京都私立中学高校展     | みやこめっせ 3F    |

先輩が語ってくれたことを忘れないように、そして今、夏休み前の「やる気」を忘れないように、この夏の目標を机の上にメモして貼ったり、手帳に書いておきましょう。もし、この夏休みに怠けそうになったら思い出してほしいと思います。

下記の話は以前に進路学活でも載せましたが、保護者の方にも読んでもらいたいので再度、載せておきます。

## 『一流大学出身』というハンデ

今までの日本は、<sup>しゅうしんこよう</sup>終身雇用（一度入社した人は、よほどのことがない限り、企業はクビにしない）・<sup>ねんこうじょれつ</sup>年功序列（年をとるにしたがって会社での地位や給料が上がっていく）が常識であった。だから、いい高校、いい大学へ進学し、一流大学卒業というブランドを身につけ、いい会社に入ればそれで一生いい生活ができた。ところが今、そういう制度が崩れ、<sup>せいどくず</sup>実力主義の世の中になってきたという。企業は本当に仕事のできる人材を求めようになり、必ずしも有名難関大学出身者が、有能な人物とは限らないことに気づいたのだ。そこで、<sup>していこうせい</sup>指定校制（うちの企業は〇〇大学出身者しか採用しませんという方針）を<sup>はいし</sup>廃止し、入社試験の内容も、ペーパーテストの学力だけでなく、もっとほかの見方をする企業が増えてきた。具体的に言えば、どこの学校を出たかは問題にせず、そこで何を学び、何をやってきたのかを問うようになったのだ。

それについてはこんな例がある。ある会社では一流大学出身の新入社員に対して、次のような話をしたという。「おそらく君たちは一流大学へ進学するために、一生懸命勉強してきたであろう。その努力は<sup>とうと</sup>尊いものだ。しかし、そのかわりに大切なものを<sup>ぎせい</sup>犠牲にしてきたことも事実だ。しんどいクラブ活動<sup>けいえん</sup>を敬遠し、人のために働く委員会活動にも<sup>しょうきょくてき</sup>消極的で、時には当然の義務<sup>ぎむ</sup>である掃除をさぼって勉強に打ち込んできた人もいるのではないか。今の会社はそのような人物は求めてはいない。時には人の中心となり、時には人の陰<sup>かげ</sup>に回り、仲間とともに仕事を進められる人材が必要なのだ。『たとえ失敗しても、もう一度あの人と一緒に仕事がしたい。』と、人から思われるような人間性をもった人物がほしいのだ。君たちは一流大学出身という<sup>じふ</sup>自負を持ってこの会社に就職してきたことであろう。しかし、そのことが会社ではハンデになるということを知ってもらいたい。君たちがこれからこのハンデを克服していくことを期待する。」

これは嘘のような話だが、事実あったことだという。中学3年生の君たちは、今、自分の進路決定のためにいろいろな思いを持っていることだろう。しかし、どこの高校へ入るかということが問題なのではなく、そこで何を学ぶか、何をすることが問題なのだということを知っておいてもらいたい。

最後に、こんな話も聞いたので紹介しよう。

ある超一流と言われる大学を出た人が卒業式の日、「お父さん、お母さん、今日〇〇大学を卒業し、これであなの方への義理は果たしました。明日からは自分のやりたいことをやっています。」と言って、翌日から<sup>ふくしよく</sup>服飾の専門学校に入学し、中卒・高卒の人と肩を並べて勉強したという。

世の中は確実に変わってきている。



このお話の最後にある「卒業式の日の話」と同じような話を、別の先生からも聞きました。別の先生の話では、大学を卒業したあと音楽関係の学校に入りなおした人もいたそうです。